

## 実践事例発表レジュメ

研修・研究事業名	青少年問題と社会教育
実践事例名（テーマ）	都立学校「自立支援チーム」派遣事業の取組
事業主体（実施機関）	東京都教育庁地域教育支援部
連携・協力機関等	
発表者	東京都教育庁地域教育支援部主任社会教育主事 梶野 光信

期日 平成30年 8月 9日

## 内 容

東京都教育委員会（以下、都教委という。）は、平成24年2月に『都立高校改革推進計画』を策定した。「都立高校に入学した生徒全員に何とか高卒資格を取らせ、社会に送り出したい」という当時の教育長の思いを受け、策定された計画であった。

その中で「中途退学の未然防止と中途退学者等に対する進路支援」という方針を掲げ、平成24年度に「都立高校中途退学者等追跡調査」を実施した。

この調査を受け、平成25年度から若者支援NPOに委託し、都立高校における中途退学の未然防止と進路未決定者への進路支援に関するアプローチを3年間のモデル事業として実施する。

しかし、NPOへの事業委託という方式では、所期の目的を達成できず、都教委は事業の抜本の見直しを迫られることになる。

その結果、平成28年度から、都教委の一般職非常勤としてYSW（ユースソーシャルワーカー）を採用し、それをチーム（「自立支援チーム」として編成し、都立高校に派遣するという形で事業を組み変えた。

これが功を奏し、平成29年度には実人数で3,000名を超える生徒たちの支援が行われるようになった。

都立学校「自立支援チーム」派遣事業の最大の特徴は、都教委の社会教育部門が施策化した点にある。なぜ、社会教育部門が施策を担当したのか、またそのことによるメリットは何かについて、報告をさせていただく。

## 〔参考文献〕

梶野光信、柘澤利也「ユースソーシャルワーカーによる高校生支援」末富芳編『子どもの貧困対策と教育支援』明石書店、2017年、pp.289-305